

【科目名】	心理学	基礎分野(2単位)	【講師名】	佐藤 宏平			
【講義期間】	1年次前期 令和6年4月11日～		【対象学生 第1学年	理学療法学科 65名 作業療法学科 25名			
【時間数】	30時間 (2時間 15回 ほか期末試験) 木曜日		【時間帯】	14 : 40 ~ 16 : 10			
授業内容・目標	心理学の定義、歴史、基礎的概念について、体験的な学習を通じて学んでいきます。						
前提知識	自分の心や他者の心についてこれまで考えたり、感じたりした経験および知識。また心に関する興味・関心。						
【実施形態】	講義(○)	演習(○)	実習()				
到達目標	心理学の歴史、基礎的概念、人名、基礎的な概念について説明することが出来る。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	30	50	0	20	0	0
	実施時期	授業全体	最終回		適宜		
	補足						
	関心・意欲	○	○		○		
	知識・理解		○		○		
	思考・推論		○		○		
実践・表現	○			○			

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月11日	1	心理学とは？	心理学の定義、心を科学するとは？、さまざまな心理学、ほか	佐藤
4月18日	2	心理学の歴史	心理学の歴史、実験心理学の父"ウィルヘルム・ヴント"、行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、精神分析学、ほか	佐藤
5月2日	3	感覚、知覚の心理学1	感覚、知覚、適刺激、ウェーバー・フェヒナーの法則、刺激閾、弁別閾、閾下知覚、ほか	佐藤
5月9日	4	感覚、知覚の心理学2	ゲシュタルト心理学、図地反転図形、錯視、選択的注意、ニュールック心理学、ほか	佐藤
5月16日	5	記憶と学習の心理学1	短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリー、リハーサル、マジカル・ナンバー、記憶の干渉、ほか	佐藤
5月23日	6	記憶と学習の心理学2	レスポデント条件付け、オペラント条件付け、強化スケジュール、般化、観察学習、ほか	佐藤
5月30日	7	脳と心の心理学1	大脳、小脳、中脳、ニューロン、シナプス、ほか	佐藤
6月6日	8	脳と心の心理学2	脳の構造とその機能、向精神薬のメカニズム、ほか	佐藤
6月13日	9	性格と心理アセスメント1	知能、パーソナリティ、質問紙法、投映法、作業検査法、ほか	佐藤
6月20日	10	性格と心理アセスメント2	YG、MMPI、TEG、ほか	佐藤
6月27日	11	性格と心理アセスメント3	SCT、ロールシャッハテスト、バウムテスト、TAT、P-Fスタディ、認知症検査、ほか	佐藤
7月4日	12	対人関係の心理学1	セルフハンディキャッピング、自己呈示、自己開示、コミュニケーション、対人魅力、ほか	佐藤
7月11日	13	対人関係の心理学2	リーダーシップ、社会的促進、社会的手抜き、アイヒマン実験、同調、少数者影響、ほか	佐藤
7月18日	14	発達と教育の心理学1	発達の臨界期、生理的早産、ファンツの選好注視、ほか	佐藤
7月25日	15	発達と教育の心理学2	アタッチメント、ハーロウのアカゲザルの実験、ストレンジシチュエーション、ピアジェの認知的発達段階説、ほか	佐藤
教科書参考書	心理学のエッセンス 東北文教大学心理学研究会編 日本評論社			
授業に必要な物	上記テキスト、初回配布する講義資料、筆記用具、調べ学習のためのスマートフォン			
備考				

【科目名】	法学	基礎分野(2単位)	【講師名】	渡辺 信英 長谷川 雄一			
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科 / 作業療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	14:40~16:10 (他時間割参照)			
授業内容・目標	憲法の意味と基本的人権の理解						
前提知識							
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	医療人を目指す者として人権と福祉について理解する						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		当科目終了後				
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
実践・表現		○					

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	オリエンテーション	コースの内容、グループワーク(GW)、授業の方法を説明する	渡辺
	2	映像で学ぶ敗戦の道①	悲惨と虚無①一戦場における日本人	長谷川
	3	映像で学ぶ敗戦の道②	悲惨と虚無②一焦土の風景	長谷川
	4	映像で学ぶ敗戦の道③	空虚なテクノロジー	長谷川
	4	映像で学ぶ敗戦の道④	ポツダム宣言受諾と日本封じ込め	長谷川
	5	教養とは	教養について学生個人、グループワークで授業をすすめる	渡辺
	6	自然法(1)	人間の自由のために自然法が主張され、人権の萌芽がめばえた	渡辺
	7	自然法(2)	ホッブス・ロック・ルッソーについての理論を比較する	渡辺
	8	生存権	生存権の理論を理解し、判例の歴史的変遷を習得する	渡辺
	9	基本的人権の内容	基本的人権を構成する権利を理解し、グループワークで課題を討議する	渡辺
	10	基本的人権の制限	基本的人権を公共の福祉による制限について、判例を検討しながら考える	渡辺
	11	幸福追求権(1)	幸福追求権を理解し、新しい人権をグループワークで論議する	渡辺
	12	幸福追求権(2)	幸福追求権についての判例を検討して、グループワークで論議する	渡辺
	13	平等権	平等権を理解し、代表的な判例を批評できるようにする	渡辺
	14	表現の自由	表現の自由の多様な権利を把握し、判例を批評する	渡辺
	15	まとめと評価	知識・理解度の確認	渡辺
教科書 参考書	「日本国憲法 人権と福祉」 渡辺信英(編) 南窓社 2014			
授業に必要な物	適宜連絡する			
備考				

【科目名】	臨床美術	基礎分野(2単位)	【講師名】	小野寺 良枝			
【講義期間】	1年次前期 令和6年4月8日～		【対象学生 第1学年	理学療法学科 65名 作業療法学科 25名			
【時間数】	30時間(2時間 15回 ほか期末試験) 月曜日		【時間帯】	10:40 ~ 12:10			
授業内容・目標	1. 脳の活性化を目的とした芸術療法である臨床美術について学ぶ。 2. 臨床美術におけるコミュニケーション理論を学び、異年齢間におけるコミュニケーションについての知識を得る。 3. 制作を通して自身の心の解放を図る。						
前提知識	無し						
【実施形態】	講義(○)	演習(○)	実習()				
到達目標							
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	50			50		
	実施時期	平時			平時		
	補足						
	関心・意欲	○			○		
	知識・理解	○			○		
	思考・推論				○		
実践・表現	○						

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月8日	1	ガイダンス	臨床美術の基礎知識(1) 制作体験「色と線で遊ぼう」	小野寺
4月15日	2	臨床美術アートプログラム制作	臨床美術の基礎知識(2) 制作体験「りんごの量感画」	小野寺
4月22日	3	臨床美術基幹	臨床美術の沿革(効果とその実際) 右脳モードで描く絵と左脳モードで描く絵の違いについて	小野寺
5月13日	4	臨床美術アートプログラム制作	臨床美術の基礎知識(3) 五感を使って制作「色のアラベスク」(ドリッピングの面白さに気づく)	小野寺
5月20日	5	臨床美術アートプログラム制作	臨床美術の基礎知識(4) 五感を使って立体制作「立体のかぼちゃ」①	小野寺
5月27日	6	臨床美術アートプログラム制作	臨床美術の基礎知識(4) 五感を使って立体制作「立体のかぼちゃ」② / 課題(私の感性地図)	小野寺
6月3日	7	アートコミュニケーション論(1)	言語によるコミュニケーション / 課題レポート書式説明	小野寺
6月10日	8	アートコミュニケーション論(2)	非言語によるコミュニケーション 制作「二人で描く」	小野寺
6月17日	9	アートコミュニケーション論(3)	異年齢間とのコミュニケーション(臨床美術の実際) 高齢者との関わり・子どもとの関わり・障がい者との関わりについて	小野寺
6月24日	10	臨床美術アートプログラム制作	臨床美術の基礎知識(5) 身近なものを使って制作「鉛筆のアナログ画」	小野寺
7月8日	11	存在論的人間観	臨床美術の根幹にある考え方 「いってくれてありがとう」を言えますか?	関根一夫
7月22日	12	臨床美術アートプログラム制作	臨床美術の基礎知識(6) アナログ的感覚で制作「色面とマチエール」 / 課題レポートについて	小野寺
7月29日	13	臨床美術アートプログラム制作	臨床美術の基礎知識(7) 土粘土による制作「土偶を作る」	小野寺
8月5日	14	臨床美術アートプログラム制作	臨床美術の基礎知識(8) 観察の大切さを感じて制作「なすの量感画」 / 課題レポート提出日	小野寺
8月26日	15	臨床美術アートプログラム制作と総括	総括 端材や身近にある材料を用いて、自身で制作を試みる	小野寺
教科書 参考書	改訂新版臨床美術認知症治療としてのアートセラピー 金子健二編 日本地域社会研究所			
授業に必要な物	はさみ・スティックのり・ウェットティッシュ・ティッシュ・割りばしペン(割りばしの先を鉛筆削りで削ったもの) * 毎回の持参をお願いします。			
備考	講義内容は変更する場合があります			

【科目名】	社会福祉学	基礎分野2単位	【講師名】	上村 裕樹			
【講義期間】	1年次前期 令和6年4月12日～		【対象学生 第1学年	理学療法学科 65名 作業療法学科25名			
【時間数】	30時間(2時間15回 ほか期末試験) 金曜日		【時間帯】	9:00～10:30			
授業内容・目標	社会福祉のこれまでの歴史的展開を踏まえ、その理念や原理、各種法制度の成立の状況やその変遷を知り、社会福祉サービスの成立とその役割について理解する。また、その対象についても同様に社会的状況やその背景、各対象へのサービスの具体的な内容についても理解していくことを通して、理論の上に立った実践の展開について学ぶ。						
前提知識	社会福祉サービスに関わるだけでなく、現在の私達の暮らしにおける生活上の課題や取り巻く環境についても興味や関心をもっておくことが望ましい。そしてその対象は自分を含む世代に関わる身近なものだけに限るのではなく、社会の状況や出来事に関して広く多くの事象を知ろうとする姿勢を期待する。						
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	①社会福祉の歴史的展開や法制度などについて理解し、適切に説明・報告することができる。②社会福祉の理念や原理を理解し、現在の社会福祉サービスについて、説明することができる。③社会福祉の対象を理解し、その対象者の背景や状況を踏まえた上で、対象者が抱える課題とその解決策について説明・報告することができる。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	20	30		40	10	
	実施時期	適宜各回	終了時		適宜各回	適宜各回	
	補足	ワーク等への取り組み	学びの要点理解		授業内容理解に関して	ワーク等の取り組み	
	関心・意欲	○	○		○		
	知識・理解		○		○	○	
	思考・推論	○	○		○	○	
実践・表現	○	○		○	○		

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4/12	1	イントロダクション・現代生活と社会福祉	身近にある社会福祉(グループワーク)	上村
4/19	2	現在の社会状況	人口動態に関する理解	上村
5/10	3	現在社会の課題	社会課題への解決にむけた協同アプローチ(グループワーク)	上村
5/17	4	現在社会の課題	社会課題への解決にむけた協同アプローチ(グループワーク)	上村
5/24	5	社会福祉の役割と必要性	現在社会における社会福祉の役割とその必要性	上村
5/31	6	社会福祉の歴史	日本の社会福祉の歴史	上村
6/7	7	社会福祉の法律と制度	日本における社会福祉に関わる法律と制度の仕組み	上村
6/14	8	社会福祉従事者	社会福祉に関わる専門職	上村
6/21	9	社会福祉における相談援助	個別的相談援助の理解	上村
6/28	10	社会福祉における相談援助	個別的相談援助の実践	上村
7/5	11	利用者主権・利用者保護の仕組み	権利の主体、人権の尊重	上村
7/19	12	児童家庭福祉	こどもの生活と福祉の実際	上村
7/26	13	障害者福祉	障害者の生活と福祉の実際	上村
8/2	14	高齢者福祉	高齢者の生活と福祉の実際	上村
8/30	15	まとめ・社会福祉のこれから	これからの社会福祉の在り方と方向性	上村
教科書 参考書	社会福祉 (ミネルヴァ書房)			
授業に必要な物	必要資料等は適宜指示します。Googleフォーム等を活用した課題実施もありますので、インターネットに接続出来る機器をご準備ください(PC/タブレット/スマホ等)			
備考	協働学習を取り入れているため、協同的な学び合いを期待します。積極的に話し合い協力し合う姿勢にて授業へ臨んでください。質問等は適宜回答いたしますので、お問い合わせ下さい。			

【科目名】	社会科学論	基礎分野(1単位)	【講師名】	阿部 正孝			
【講義期間】	1年次前期 令和6年4月10日～		【対象学生】	第1学年 理学療法学科 65名 作業療法学科 25名			
【時間数】	15時間 (2時間 7.5回 ほか期末試験) 水曜日		【時間帯】	10 : 40 ~ 12 : 10			
授業内容・目標	社会事象を科学的見地で理解する						
前提知識	リハビリテーションの簡単な理解。社会情勢の理解。						
【実施形態】	講義()	演習()	実習()				
到達目標	人に「援助する」とはどのようなことを説明できるようになる。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		75%		25%		
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲						
	知識・理解						
	思考・推論						
実践・表現							

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4・10	1	オリエンテーション	授業概要の説明	阿部
4・17	2	リハビリテーションを理解する。	リハビリテーションの歴史を学びます。	阿部
5・1	3	心と人間関係を科学する。	今日の人間関係の在り方を学びます。	阿部
5・8	4	障害の実際を学びます。	障害とは何か？その視点を学びます。	阿部
5・15	5	ストレスとは何かを科学する。	ストレス反応を理解します。	阿部
5・22	6	人権を科学する	人権を学びながら、「自由」と「主体性」について学びます。	阿部
5・29	7	精神発達問題を科学する	社会問題としての発達問題の症状を理解します。	阿部
6・5	8	専門性とは何かを科学する。	療法士としての専門性を科学します。	阿部
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書 参考書	なし			
授業に必要な物				
備考				

【科目名】	医療倫理	【講師名】	渡辺 信英				
【講義期間】	1 年次前期	【対象学生】	第 1 学年 理学療法学科 名 作業療法学科 名				
【時間数】	時間 (時間 回)	【時間帯】	: ~ : (他時間割参照)				
授業内容・目標	医療倫理は、臨床の場面で倫理的に考慮・判断する場面が多くあり、医療専門職にとって、その理解は重要である。						
前提知識							
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	①人間の尊厳について理解する。②理学・作業療法士の倫理綱領を理解する。③医療4原則に基づいて理解・討議することができる。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10%	80%			10%	
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲						
	知識・理解						
	思考・推論						
	実践・表現						

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月10日	1	オリエンテーション・教養とは	①、コースの説明 ②、教養についてグループ・ワーク	渡辺
4月17日	2	人間の尊厳	①SOL(生命の尊厳) ②QOL(生活の質) ③徳倫理	渡辺
5月1日	3	①功利主義 ②二重結果論 ③一貫性の要求	「ソフィーの選択」、「トロッコ問題」、「医療問題」についてグループ・ワークを含め考える。	渡辺
5月8日	4	ヒポクラテスの誓い	①ヒポクラテスの9個の誓い	渡辺
5月15日	5	倫理4原則(自立尊重原則・善行原則・無危害原則・公正原則)	①タスキギー事件 ②ニュルンベルク裁判 ③ベルモントレポート	渡辺
5月22日	6	インフォームドコンセントと自己決定	①インフォームドコンセントと判例 ②パターナリズムと自己決定	渡辺
5月29日	7	守秘義務・個人情報保護	①プライバシー権 ②タラソフ事件3守秘義務と最善の利益	渡辺
6月5日	8	①医療広告ガイドライン ②全体のまとめ	①誇大広告の禁止 ②全体の理解	渡辺
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書 参考書				
授業に必要な物				
備考				

【科目名】	情報処理	基礎分野(1単位)	【講師名】	瀬戸厚史(理学療法士):医療機関にて7年実務経験			
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	9:00 ~ 10:30 (他時間割参照)			
授業内容・目標	文書作成などの実践を通じ、コンピューターを思考の道具として用いる基礎力の習得						
前提知識							
【実施形態】	講義()	演習(○)	実習()				
到達目標	文書作成ができるようになる						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)				100		
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○				○	
	知識・理解					○	
	思考・推論					○	
実践・表現	○				○		

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	インターネットリテラシー	インターネットリテラシーについて、メールの作成	瀬戸
	2	パソコンの基本操作①	Wordを使用して文書を作成(文献抄読～レポートの表紙作成) 印刷の仕方	瀬戸
	3	パソコンの基本操作②	Wordを使用して文書を作成(文献抄読～レポートの表紙作成) 印刷の仕方	瀬戸
	4	パソコンの基本操作③	Wordを使用して文書を作成(文献抄読～レポートの表紙作成) 印刷の仕方	瀬戸
	5	Word操作①	Wordで図を作成する(家族構成の図、家の間取り図、ICFの図) Wordに図を挿入する(ネットから画像を挿入する)	瀬戸
	6	Word操作①	Wordに表を挿入する(ROMの表、初期と最終)	瀬戸
	7	Word操作②	Wordでレジユメを作成しよう	瀬戸
	8	Word操作③	Wordでレジユメを作成しよう	瀬戸
	9	Excel操作④	簡単な計算式の入力	瀬戸
	10	グループワーク	ケースノートを作成しよう	瀬戸
	11	グループワーク	ケースノートを作成しよう	瀬戸
	12	グループワーク	ケースノートを作成しよう	瀬戸
	13	グループワーク	ケースノートを作成しよう	瀬戸
	14	グループワーク	ケースノートを作成しよう	瀬戸
	15	グループワーク	ケースノートを作成しよう	瀬戸
教科書 参考書				
授業に必要な物	必要に応じて連絡。準備担当者をはじめ、各自事前に確認をすること。 パーソナルコンピューターを各自準備すること。			
備考				

【科目名】	医学英語	基礎分野 1単位	【講師名】	瀬戸 厚史(理学療法士):医療機関にて7年実務経験 東海林智也(理学療法士):医療機関等にて18年実務経験			
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科			
【時間数】	15時間 (2時間 8回)		【時間帯】	時間割参照			
授業内容・目標	医療において、臨床や文献を理解する上で、高頻度で使用される専門用語についての英単語を覚え、その意味を理解する。						
前提知識	英語の基本(文字の読み書き)が出来ている。 英語、または横文字に慣れている。						
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	臨床、文献で使用される専門用語について読み書きが出来る。 英語で表記された用語の意味を理解し、説明出来る。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	0	100				
	実施時期	平時	当科目終了時				
	補足	質疑応答	日本語⇄英語の変換				
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解	○	○				
	思考・推論						
実践・表現	○						

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月30日	1	基礎用語①	身体部位(体表・骨)	瀬戸
5月1日	2	基礎用語②	運動方向、基本姿勢	瀬戸
5月7日	3	基礎用語③	関節について	瀬戸
5月14日	4	基礎用語④	筋肉について	瀬戸
5月30日	5	基礎用語⑤	評価について	瀬戸
6月6日	6	基礎用語⑥	バイタルサインについて	瀬戸
6月13日	7	基礎用語⑦	車いす、福祉用具、その他の用語	瀬戸
6月20日	8	基礎用語⑧	車いす、福祉用具、その他の用語	瀬戸
6月28日	9	まとめと評価	リハビリテーション業務で必要な基礎用語の確認	瀬戸
教科書 参考書	各單元ごとにプリント配布			
授業に必要な物	PC、プロジェクターを準備する。			
備考				

【科目名】	精神保健学	専門分野(2単位)	【講師名】	阿部 正孝			
【講義期間】	1年次後期 令和6年10月16日～		【対象学生 第 1学年	理学療法学科 65名 作業療法学科 25名			
【時間数】	30時間(2時間 15回)ほか期末試験 水曜日		【時間帯】	13 : 00 ~ 14 : 30			
授業内容・目標	精神保健の個別課題を理解し、リハビリテーションの役割を知る						
前提知識	心の健康とは何か？を学んでほしい。						
【実施形態】	講義()	演習()	実習()				
到達目標	心の健康について説明できるようになる。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		80%		10%	10%	
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲						
	知識・理解						
	思考・推論 実践・表現						

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
10月16日	1	今日の精神保健1	健康観を考える	阿部
10月23日	2	心の健康について	ストレスを中心に心の動きを知る。	阿部
10月30日	3	地域精神保健活動について	ノーマライゼーションを目指す地域活動を学ぶ	阿部
11月6日	4	家族の課題とアプローチ	家族の変遷	阿部
11月13日	5	学校の課題とアプローチ	学校問題の歴史を学ぶ。	阿部
11月20日	6	勤労者の課題とアプローチ	職場での健康維持について学ぶ。	阿部
11月27日	7	精神医療の現況	心の健康が生活に与える影響を学ぶ。	阿部
12月4日	8	尊厳について	自己確認について	阿部
12月11日	9	嗜癪問題	アルコール依存など嗜癪問題を考えます。	阿部
12月18日	10	認知症	認知症の症状と生活を学ぶ。	阿部
12月25日	11	乳幼児期・学童期のライフサイクル	ライフサイクルの意義を学ぶ。	阿部
1月15日	12	思春期・青年期のライフサイクル	ライフサイクルの意義を学ぶ。	阿部
1月22日	13	青年期・老人期のライフサイクル	ライフサイクルの意義を学ぶ。	阿部
1月29日	14	「こだわり」「偏り」について学ぶ。	精神発達問題を考えます。	阿部
2月5日	15	振り返り	授業の総括を行い、今後の自分に役立つものを考えます。	阿部
教科書 参考書	なし			
授業に必要な物				
備考				

【科目名】	保健体育	基礎分野 1単位	【講師名】	小畑 陽平(理学療法士):医療機関にて18年実務経験 渡辺 似望(理学療法士):医療機関にて15年実務経験			
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第 1学年 理学療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	13:00~16:10 (他時間割参照)			
授業内容・目標	地域に携わる健康指導を理解し、自ら考え運動方法や、運動指導が行えるようにする。						
前提知識	年齢層にあった運動負荷、地域理学療法学、解剖学						
【実施形態】	講義() 演習(○) 実習()						
到達目標	運動指導に対する知識を身に着け、年齢層にあった運動指導を実践できる。また、リスク管理が行える。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10			20	70	
	実施時期	平時			平時	平時	
	補足	質疑応答・出席など			採点表		
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解					○	
	思考・推論					○	
実践・表現	○				○		

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	スポーツ	復興マラソン(運営ボランティア)	小畑
	2	スポーツ	復興マラソン(運営ボランティア)	小畑
	3	スポーツ	復興マラソン(運営ボランティア)	小畑
	4	スポーツ	復興マラソン(運営ボランティア)	小畑
	5	スポーツ	球技大会(体育祭)	渡辺
	6	スポーツ	球技大会(体育祭)	渡辺
	7	スポーツ	球技大会(体育祭)	渡辺
	8	スポーツ	球技大会(体育祭)	渡辺
	9	健康教室について	集団の目的・手順・技術	小畑
	10	健康教室について	集団の目的・手順・技術	小畑
	11	介護予防	介護予防も含めた理論	小畑
	12	グループワーク	ディスカッション、調べ方、まとめ方、発表の仕方等	小畑
	13	グループワーク	ディスカッション、調べ方、まとめ方、発表の仕方等	小畑
	14	実演		小畑
	15	実演		小畑
		まとめと確認		小畑・渡辺
教科書等				
授業に必要な物	動きやすい服装、PC、プロジェクター等の準備			
備考	グループで協力して行う。一人一人必ず役割を与える。			

【科目名】	解剖学 I	専門基礎分野 2単位	【講師名】	熊谷 拓未(理学療法士):医療機関等にて8年実務経験			
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1 学年 理学療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	時間割参照			
授業内容・目標	骨の構造、骨の各名称の理解ができるようになること						
前提知識	骨の名前や形のイメージ						
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	骨の構造、骨の各名称の理解ができるようになること						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10%	80%		10%		
	実施時期		当科目終了時				
	補足	授業態度			予習課題提出状況		
	関心・意欲	○			○		
	知識・理解		○		○		
	思考・推論		○		○		
	実践・表現						

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月10日	1	授業の流れ、人体の構成と発生①	P5～26の内容	熊谷
4月17日	2	人体の構成と発生②	P5～26の内容	熊谷
5月1日	3	骨の構造について	P27～35の内容	熊谷
5月8日	4	骨学(下肢の骨:下肢帯・骨盤)	P78～82:下肢帯(a腸骨、b坐骨、c恥骨)骨盤の構造(a骨盤の構造、b骨盤の性差) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
5月15日	5	骨学(下肢の骨:大腿骨・膝蓋骨)	P82～P85:自由下肢骨(a大腿骨、b膝蓋骨) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
5月22日	6	骨学(下肢の骨:脛骨、腓骨)	P85～P88:自由下肢骨(c脛骨、d腓骨) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
5月29日	7	骨学(下肢の骨:足骨)	P88～P92:自由下肢骨(e足根骨、f中足骨、g趾骨) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
6月5日	8	骨学(上肢の骨:上肢帯)	P66～P69:上肢帯(a鎖骨、b肩甲骨) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
6月19日	9	骨学(上肢の骨:上腕骨、橈骨、尺骨)	P70～P72:自由上肢骨(a上腕骨、b橈骨、c尺骨) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
6月26日	10	骨学(上肢の骨:手骨)	P74～P77:自由上肢骨(d手根骨、e中手骨、f指骨) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
6月26日	11	骨学(脊柱)	P58～62:脊柱の全景、椎骨の基本形態(a椎体と椎弓、b突起)、各椎骨の形態的特徴(a頸椎、b胸椎、c腰椎) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
7月3日	12	骨学(仙骨)	P63～65:各椎骨の形態的特徴(d仙骨、e尾骨) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
7月10日	13	骨学(頭蓋骨:構成する骨、縫合)	P46～50:外面から見た頭蓋(a上面、b前面、c側面、d後面、e下面)、内面から見た頭蓋(a前頭蓋窩、b中頭蓋窩、c後頭蓋窩) 骨標本を使用し、筋の附着部やランドマークをグループで覚える。	熊谷
7月17日	14	全体の復習①	自由上肢骨、自由下肢骨について総復習。	熊谷
7月24日	15	全体の復習②	体幹、肩甲帯、脊柱、仙骨、頭蓋骨について総復習。	熊谷
8月2日		まとめと評価		熊谷
教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版			
授業に必要な物	骨標本			
備考				

【科目名】	解剖学Ⅱ(筋)	専門基礎分野 2単位	【講師名】 東海林 智也(理学療法士):介護・教育機関等にて17年勤務				
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科				
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 10:40~12:10 (他時間割参照)				
授業内容・目標	骨格筋の一般的な構造と機能を理解する。 人体の骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用を理解する。						
前提知識	筋の名前や形のおおよそのイメージ						
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	人体の骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用を理解する。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表 ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		70%				30%
	実施時期		当科目終了時				6,11,14回目
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				○
	思考・推論		○				
	実践・表現		○				

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月30日	1	授業の流れ、筋の構造について	骨格筋、筋組織、関節運動、筋の形状、筋に関連する構造等	東海林
5月7日	2	下肢帯の筋について	腸骨筋、大腰筋、小腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、 大腿筋膜張筋、梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋	東海林
5月14日	3	大腿の筋について	縫工筋、大腿四頭筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、 内側広筋、膝関節筋、恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、薄筋、 外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋	東海林
6月4日	4	下腿の筋について	前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、腓腹筋、 ヒラメ筋、足底筋、長趾屈筋、長母趾屈筋、膝窩筋、後脛骨筋、 長腓骨筋、短腓骨筋	東海林
6月11日	5	足の筋について	母指外転筋、短母趾屈筋、母指内転筋、小趾外転筋、 短小趾屈筋、小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫横筋、 底側骨間筋、背側骨間筋、短母趾伸筋、短趾伸筋	東海林
6月19日	6	下肢筋の確認試験、下肢筋のまとめ	下肢帯～足の筋の知識確認	東海林
6月26日	7	上肢帯の筋について	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋	東海林
7月3日	8	上腕の筋について	上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋	東海林
7月10日	9	前腕の筋について	円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、 浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋、腕橈骨筋、 長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋、回外 筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋	東海林
7月16日	10	手の筋(手内筋群)について	短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋、短掌筋、小指外転筋、 短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋、背側骨間筋、掌側骨間筋	東海林
7月17日	11	上肢筋の確認試験、上肢筋のまとめ	上肢帯～手の筋の知識確認	東海林
7月23日	12	胸部・腹部・背部の筋について	浅胸筋群、深胸筋群、横隔膜、腹部の筋、背部浅側の筋、棘肋筋群、固有背筋 群、後頭下筋群	東海林
7月24日	13	頭部、頸部の筋について	咀嚼筋群、浅頭筋、側頭筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群、椎前筋群、斜角筋群	東海林
7月30日	14	体幹筋の確認試験、体幹筋のまとめ	頭部～背部の筋の知識確認	東海林
8月6日	15	下肢・上肢・体幹筋のまとめ	総括まとめ	東海林
教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版			
授業に必要な物	オリジナルテキスト(授業毎に配布)、骨模型および筋模型(必要時:準備担当者を中心に事前確認すること)			
備考				

【科目名】	解剖学Ⅲ(神経・脈管)	専門基礎分野(2単位)	【講師名】 高村 真司(理学療法士):医療機関にて16年実務経験 渡辺 似望(理学療法士):医療機関にて15年実務経験				
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】第1学年 理学療法学科				
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 13:00~14:30 (他時間割参照)				
授業内容・目標	脳と脊髄の基本構造と名称、および主な末梢神経の名称と走行を理解する。 心臓の構造と名称、体幹と四肢の主な血管と走行、およびリンパ系を理解する。						
前提知識	他の科目で得た身体構造の基礎知識						
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	人の神経・脈管系を総合的に理解する。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		科目終了時				
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
実践・表現		○					

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月10日	1	神経系総論	神経系の区分・神経系の構成と機能	高村
4月17日	2	中枢神経系	大脳(前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉)	高村
5月1日	3	中枢神経系	間脳・辺縁系	高村
5月8日	4	中枢神経系	脳幹・小脳	高村
5月15日	5	中枢神経系	神経路	高村
5月22日	6	末梢神経系	脳神経	高村
5月29日	7	末梢神経系	自律神経系	高村
6月4日	8	末梢神経系	脊髄の構造と機能	高村
6月11日	9	末梢神経系	脊髄神経(頭神経)	高村
6月19日	10	末梢神経系	脊髄神経(胸神経・腰神経)	高村
6月26日	11	末梢神経系	脊髄神経(仙骨神経)	高村
7月2日	12	循環器系	血管系 心臓・動脈系①	高村
7月10日	13	循環器系	血管系 心臓・動脈系②	高村
7月17日	14	循環器系	血管系 脳動・静脈系・脳脊髄液系	高村
7月24日	15	循環器系	血管系 静脈系・リンパ系	高村
7月31日		まとめと評価		科目担当
教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野) 解剖学 第5版 野村巖(著) 医学書院 病気がみえる Vol.7 脳・神経 第2版 医療情報科学研究所(編) MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.2 循環 第5版 医療情報科学研究所(編) MEDIC MEDIA			
授業に必要な物	PC(講義用・常時)、全身骨格の模型・脳の模型・心臓の模型(随時)			
備考				

【科目名】	解剖学Ⅳ(内臓学)	専門基礎分野(2単位)	【講師名】	吉田 望(理学療法士):医療機関にて28年実務経験			
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	時間割参照			
授業内容・目標	人体構造のうち、内臓・感覚器について基本的な事項を理解する。						
前提知識	ぬりえで学ぶヒトのからだp45～75を終了し臓器の名前を知っていること						
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	人体構造のうち、内臓・感覚器について基本的な事項を理解し、説明できる。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
	実践・表現		○				

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月15日	1	第7章 IV消化器系	消化に関する器官 口腔 嚥下	吉田望
4月22日	2	第7章 IV消化器系	咽頭 食道	吉田望
5月13日	3	第7章 IV消化器系	胃 十二指腸	吉田望
5月20日	4	第7章 IV消化器系	十二指腸に開口する臓器など(膵臓 肝臓 脾臓)	吉田望
5月27日	5	第7章 IV消化器系	空腸 回腸 大腸 肛門	吉田望
6月3日	6	第7章 IV消化器系	消化器総復習 中空性器官・実質性器官 腹膜内臓器・後器官、	吉田望
6月10日	7	第7章 III呼吸器系	鼻腔 咽頭 喉頭	吉田望
6月17日	8	第7章 III呼吸器系	気管 肺 横隔膜 縦隔	吉田望
6月24日	9	第7章 V泌尿生殖器系	腎臓 尿管 膀胱	吉田望
7月1日	10	第7章 V泌尿生殖器系	男性生殖器 女性生殖器	吉田望
7月8日	11	第6章 感覚器系	皮膚 嗅覚 味覚	吉田望
7月8日	12	第6章 感覚器系	視覚器	吉田望
7月22日	13	第6章 感覚器系	聴覚器	吉田望
7月29日	14	第7章 VI内分泌系	ホルモン	吉田望
7月29日	15	第7章 VI内分泌系	内分泌腺の種類	吉田望
8月5日		まとめと評価	知識・理解度の確認	吉田望
教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野) 解剖学 第4版 野村巖(著) 医学書院			
授業に必要な物				
備考				

【科目名】	体表解剖	専門分野 1単位	【講師名】	下平茂晴(理学療法士):医療機関にて10年実務経験				
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第 1学年 理学療法学科				
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	9:00~12:10 13:00~16:10 (他時間割参照)				
授業内容・目標	理学療法士に必要な触察技術の基礎として、解剖学・運動学の知識を具体的に3次元的なイメージをつなげ、実際に触診、触察の技術を身につける。							
前提知識	骨学、筋学、運動学							
【実施形態】	講義() 演習(○) 実習()							
到達目標	骨、筋肉のイメージをつけ、正確な触察ができる。 評価学、運動学、動作観察などに活かせる。							
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)	
	配分(%)	20	80					
	実施時期	平時	中間、最終					
	補足	質疑応答・出席など						
	関心・意欲	○	○					
	知識・理解		○					
	思考・推論							
	実践・表現	○						
授業計画								
日付	回数	テーマ			講義内容・キーワード			講師
10月2日	1	骨、筋の触診・触察法			触察のやり方、大腿直筋			下平
10月5日	2	骨、筋の触診・触察法			縫工筋、外側広筋前面、内側広筋			下平
10月16日	3	骨、筋の触診・触察法			大腿筋膜張筋、中殿筋前部			下平
10月23日	4	骨、筋の触診・触察法			内転筋群			下平
10月25日	5	骨、筋の触診・触察法			前脛骨筋、長趾伸筋、長母趾伸筋、第3腓骨筋、後脛骨筋			下平
10月30日	6	骨、筋の触診・触察法			長、短腓骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋、長母趾屈筋、長趾屈筋、膝窩筋			下平
11月6日	7	骨、筋の触診・触察法			大腿二頭筋、外側広筋(後部)、半腱様筋、半膜様筋			下平
11月9日	8	中間確認			下肢全体			下平
11月10日	9	骨、筋の触診・触察法			大殿筋、中殿筋(後部)、小殿筋、梨状筋、大腰筋、腸骨筋、腸腰筋など			下平
11月13日	10	骨、筋の触診・触察法			棘上筋、棘下筋、大円筋、小円筋、肩甲下筋、広背筋、菱形筋			下平
11月16日	11	骨、筋の触診・触察法			三角筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋			下平
11月17日	12	骨、筋の触診・触察法			烏口腕筋、腕橈骨筋、上腕筋			下平
11月20日	13	骨、筋の触診・触察法			長、短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋、総指伸筋、長母指外転筋、長、短母指伸筋			下平
11月27日	14	骨、筋の触診・触察法			円回内筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長掌筋、浅、深指屈筋、長母指屈筋			下平
12月1日	15	総復習			上肢全体			下平
		まとめと評価			上記筋すべて			下平
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版、骨格筋の形と触察法、プリント							
授業に必要な物	ハーフパンツ、半そで							
備考	手内在筋、体幹筋は学内実習で追加で実施する(試験範囲外)							

【科目名】	生理学 I	専門基礎分野 3単位	【講師名】	渡辺 似望(理学療法士): 医療機関にて15年実務経験			
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科			
【時間数】	60時間 (2時間 30回)		【時間帯】	別紙(時間割)参照			
授業内容・目標	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについての基本的な事柄を理解する						
前提知識	解剖学(内臓諸器官、筋、神経、脳など)						
【実施形態】	講義(○)	演習(○)	実習()				
到達目標	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについて説明できる						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		85				15
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○	○				○
	知識・理解	○	○				○
	思考・推論	○	○				○
実践・表現							

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	生命現象と人体	身体の階層性、生命現象、水、ホメオスタシス	渡辺
	2	細胞の構造と機能①	細胞膜、核、細胞小器官	渡辺
	3	神経の興奮伝導と末梢神経①	神経細胞の構造、静止電位、活動電位、興奮の伝導(跳躍伝導)	渡辺
	4	神経の興奮伝導と末梢神経②	末梢神経の種類(脳神経、脊髄神経)、自律神経	渡辺
	5	神経の興奮伝導と末梢神経③	シナプスにおける興奮の伝達(シナプスの構造、興奮の伝達、神経伝達物質)	渡辺
	6	神経の興奮伝導と末梢神経④	まとめ(神経の興奮と伝導)	渡辺
	7	筋と骨①	骨格筋(構造、運動単位、興奮収縮連関、骨格筋の収縮)	渡辺
	8	筋と骨②	骨格筋(骨格筋線維の種類、筋紡錘とGolgi腱器官)	渡辺
	9	筋と骨③	心筋(不応期、Starlingの法則)、平滑筋(機能)、骨(形成と吸収、成長)	渡辺
	10	筋と骨④	まとめ(骨格筋、心筋、平滑筋、骨)	渡辺
	11	前半のまとめ	前半総まとめ(「生命現象と人体」～「感覚」まで)	渡辺
	12	中枢神経系①	中枢神経系の構造、脊髄	渡辺
	13	中枢神経系②	脳幹、小脳、間脳	渡辺
	14	中枢神経系③	大脳皮質、脳の高次脳、脳波、覚醒と睡眠、その他	渡辺
	15	中枢神経系④	まとめ(中枢神経系の構造・機能)	渡辺
	16	感覚について①	閾値、順応、体性感覚(皮膚感覚、深部感覚)、深部感覚、内臓感覚	渡辺
	17	感覚について②	特殊感覚(1)視覚	渡辺
	18	感覚について③	特殊感覚(2)聴覚と平衡感覚、味覚、嗅覚	渡辺
	19	感覚について④	まとめ(体性感覚、視覚、聴覚)	渡辺
	20	中間のまとめ	中間総まとめ(「神経」～「中枢」)	渡辺
	21	血液について①	血液の組成(赤血球、白血球)	渡辺
	22	血液について②	血液の組成(血小板、血漿、血液型)	渡辺
	23	血液について③	まとめ(血液の組成)	渡辺
	24	心臓と循環①	血液の循環、刺激伝導系、神経による調節	渡辺
	25	心臓と循環②	心電図、血液の拍出と血圧	渡辺
	26	心臓と循環③	心周期	渡辺
	27	心臓と循環④	血圧の調節、静脈還流、臓器循環、リンパ循環	渡辺
	28	運動生理①	筋力と筋持久力、筋収縮のエネルギー源	渡辺
	29	運動生理②	運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化	渡辺
	30	後半のまとめ	後半総まとめ(「感覚」～「血液」)	渡辺
	31	まとめと評価	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みの理解	渡辺
	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版 病気がみえる Vol.7 脳・神経 病気がみえる Vol.2 循環			
授業に必要な物	パソコン、プロジェクター類			
備考				

【科目名】	生理学Ⅱ	専門基礎分野2単位	【講師名】 吉田 翔太(作業療法士):医療機関にて13年実務経験				
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科				
【時間数】	45時間 (2時間 23回)		【時間帯】 他時間割参照				
授業内容・目標	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについての基本的な事柄を理解する						
前提知識	人体を構成する各種器官・器官系の解剖						
【実施形態】	講義(○)		演習(○)		実習()		
到達目標	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについて理解できる 人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みについて説明できる						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		85				15
	実施時期						3回のまとめ
	補足						(前半・中間・後半)
	関心・意欲	○	○				○
	知識・理解	○	○				○
	思考・推論	○	○				○
	実践・表現						

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	呼吸とガスの運搬①	外呼吸と内呼吸、気道と肺胞	吉田(翔)
	2	呼吸とガスの運搬②	呼吸運動、呼吸気量	吉田(翔)
	3	呼吸とガスの運搬③	ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節、病的呼吸	吉田(翔)
	4	尿の生成と排泄①	腎臓の役割・腎臓の構造	吉田(翔)
	5	尿の生成と排泄②	尿の生成、クリアランス	吉田(翔)
	6	尿の生成と排泄③	排尿、尿の性状と排尿の異常	吉田(翔)
	7	酸塩基平衡①	血漿のpH調節	吉田(翔)
	8	酸塩基平衡②	血漿のpH調節	吉田(翔)
	9	前半のまとめ	第9章～第11章のまとめ	吉田(翔)
	10	消化と吸収①	消化器の役割、口腔消化と嚥下	吉田(翔)
	11	消化と吸収②	食道における食物輸送、胃の役割と消化	吉田(翔)
	12	消化と吸収③	十二指腸・空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割	吉田(翔)
	13	内分泌①	内分泌機能とホルモン	吉田(翔)
	14	内分泌②	各腺から分泌されるホルモンの作用①下垂体と視床下部	吉田(翔)
	15	内分泌③	各腺から分泌されるホルモンの作用②甲状腺と副甲状腺、副腎皮質と副腎髄質	吉田(翔)
	16	内分泌④	各腺から分泌されるホルモンの作用③膵臓、性腺、子その他	吉田(翔)
	17	中間のまとめ	第12、13章のまとめ	吉田(翔)
	18	代謝と体温①	栄養素	吉田(翔)
	19	代謝と体温②	エネルギー代謝	吉田(翔)
	20	代謝と体温③	体温	吉田(翔)
	21	生殖と発生・成長と老化①	男性生殖機能、女性生殖機能	吉田(翔)
	22	生殖と発生・成長と老化②	受精、着床、発生	吉田(翔)
	補	生殖と発生・成長と老化③	成長と老化	吉田(翔)
	23	後半のまとめ	第13章～第16章のまとめ	吉田(翔)
	24	まとめと評価	人体を構成する各種器官・器官系の働きとその仕組みの理解	吉田(翔)
教科書 参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 病気がみえる Vol.7 脳・神経 病気がみえる Vol.4 呼吸器			
授業に必要な物	パソコン、プロジェクター類			
備考				

【科目名】	基礎運動学	専門基礎分野(2単位)	【講師名】	高村 真司(理学療法士):医療機関にて16年実務経験 渡辺 似望(理学療法士):医療機関にて14年実務経験			
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科			
【時間数】	45時間 (2時間 23回)		【時間帯】	(他時間割参照)			
授業内容・目標	身体運動の基礎構造と運動、メカニズムに関する基礎知識を習得し、理解することが出来る。						
前提知識	各解剖学(骨・筋)の基礎知識 現時点までの生理学の基礎知識						
【実施形態】	講義(○)	演習(○)	実習()				
到達目標	身体運動の基礎構造と運動、メカニズムに関する基礎知識の習得						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期	平時	当科目終了時				
	補足	質疑応答など	基礎知識など				
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
実践・表現	○						

授業計画				
回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師	
1	運動学の概要	基礎運動学、身体運動、運動の発現	高村	
2	上肢帯の構造と運動①	関節の構造と機能、骨格筋の構造と機能	高村	
3	上肢帯の構造と運動②	各関節の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村	
4	肩関節の構造と運動①	肩関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村	
5	肩関節の構造と運動②		高村	
6	肘関節・前腕の構造と運動	肘・前腕周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村	
7	手関節・手部の構造と運動①	手関節・手周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村	
8	手関節・手部の構造と運動②		高村	
9	下肢帯の構造と運動①	関節の構造と機能、骨格筋の構造と機能	高村	
10	下肢帯の構造と運動②	各関節の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村	
11	股関節の構造と運動①	股関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村	
12	股関節の構造と運動②		高村	
13	股関節の構造と運動③		高村	
14	膝関節の構造と運動①	膝関節周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村	
15	膝関節の構造と運動②		高村	
16	足関節の構造と運動 足部の構造と運動①	足関節の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動	高村	
17	足関節の構造と運動 足部の構造と運動②		高村	
18	体幹の運動学①	頭部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動 胸部周囲の骨、関節、筋、靭帯、血管、神経、運動 脊椎、椎間板、胸郭、呼吸、体幹の筋群	高村	
19	体幹の運動学②		高村	
20	顔面と頭部の運動学	顎関節、咀嚼、表情筋	高村	
21	運動学の基礎力学①	生体力学、運動学、身体運動の面と軸、ベクトル、モーメント	高村	
22	運動学の基礎力学②		高村	
23	運動学の基礎力学③		高村	
	まとめと評価			科目担当
教科書 参考書	基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一ほか 医歯薬出版 標準理学療法・作業療法 解剖学 第5版 医学書院			
授業に必要な物	座学ではPC、プロジェクターを準備する。 実技・演習では動きやすい格好をすること。			
備考	わからない事があった場合は、可能な限り早めに質問をし、理解をしながら進めていくよう心掛けること。			

【科目名】	人間発達学	専門基礎分野(1単位)	【講師名】	渡辺似望(理学療法士):医療機関にて15年実務経験			
【講義期間】	1年次前期		【対象学生 第 1学年	理学療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	9:00 ~ 10:30 (他時間割参照)			
授業内容・目標	人間のライフサイクル全体を視野に入れつつ、乳幼児から成人、高齢者に至る人間の発達過程と各発達段階における心身の特性についての理解を深める。						
前提知識	各時期の区分について						
【実施形態】	講義(○)		演習(○)		実習()		
到達目標	乳幼児から成人、高齢者に至る人間の発達過程と各発達段階における心身の特性について理解する。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100%				
	実施時期		16回目				
	補足						
	関心・意欲						
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
実践・表現							

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月12日	1	人間発達の基礎について	人間発達とは…	渡辺
4月19日	2	母子健康保健	生理周期、妊娠期、胎生～出生、予防接種	渡辺
4月30日	3	正常運動発達について-①	原始反射・姿勢反射	渡辺
5月10日	4	正常運動発達について-②	原始反射・姿勢反射	渡辺
5月17日	5	人間発達の基礎・原始反射のまとめ	確認問題	渡辺
5月31日	6	正常運動発達について-①	正常運動発達	渡辺
6月7日	7	正常運動発達について-②	認知・言語・社会性の発達	渡辺
6月14日	8	正常運動発達について-⑤	円城寺式乳幼児分析的発達検査、デンバー式発達検査	渡辺
6月27日	9	発達学的特徴	各時期の発達・心理、エリクソンの発達段階	渡辺
6月28日	10	ライフステージ	発達段階に沿ったリハビリの展開	渡辺
7月5日	11	遊びの発達	社会関係からみた遊び、身体の発達からみた遊び	渡辺
7月19日	12	発達障害②	自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害	渡辺
7月26日	13	発達障害①	ダウン症、脳性麻痺	渡辺
8月2日	14	老年期	老化による心身の変化、フレイル・サルコペニア	渡辺
8月5日	15	人間発達の振り返り	国家試験問題など	渡辺
8月20日		まとめと評価		渡辺
教科書 参考書	なし			
授業に必要な物				
備考				

【科目名】	人体の構造と機能	専門基礎分野(2単位)	【講師名】	木幡 博人(理学療法士):医療機関にて19年実務経験 渡辺 似望(理学療法士):医療機関にて15年実務経験			
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	: ~ : (他時間割参照)			
授業内容・目標	人体の構造と機能について、解剖学・運動学・生理学をベースに理解することができる 2年次に学習する疾患学を理解する基礎を確実にする						
前提知識	前期履修科目の解剖学Ⅰ～Ⅳを再復習しておくこと						
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	人体の構造について、立体的に捉えることができる 各種臓器の機能と役割について図を用いて説明することができる 期末に行われる3科目の外部模試での正答率が5割以上となる						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		60%		40%		
	実施時期		16回		随時		
	補足						
	関心・意欲				○		
	知識・理解		○		○		
	思考・推論		○		○		
	実践・表現				○		

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	補	授業のオリエンテーション	実力測定 学習の進め方の説明	渡辺
	1	解剖学の理解	動物性機能 (中枢神経系、末梢神経系)	渡辺
	2	解剖学の理解		渡辺
	3	解剖学の理解		渡辺
	4	解剖学の理解	動物性機能 (骨格筋、視覚・聴覚・平衡感覚)	渡辺
	5	解剖学の理解		渡辺
	6	生理学の理解		渡辺
	7	生理学の理解	植物性機能 (呼吸器、循環器、消化器)	渡辺
	8	生理学の理解		渡辺
	9	生理学の理解		渡辺
	10	生理学の理解		渡辺
	11	解剖学・生理学のまとめ	前半のまとめ 後半実力課題	木幡
	12	運動学の理解	上肢の筋と運動	木幡
	13	運動学の理解	下肢の筋と運動	木幡
	14	運動学の理解	骨格系、力学	木幡
	15	運動学の理解	骨格系、力学	木幡
		まとめと確認	【基礎3科目医歯薬模擬試験】	木幡・渡辺
教科書 参考書	解剖学・生理学・運動学の教科書 病気が見えるシリーズ			
授業に必要な物				
備考	毎回決められた期限までに課題を実施し、確認を受けること。(評定の40%を占めますので注意) 本科目は1年生の集大成の科目であるので、成績不良者は進級が難しいので留意すること。			

【科目名】	病理学	専門基礎分野(2単位)	【講師名】	三木 康宏			
【講義期間】	1年次後期 令和6年10月15日～		【対象学生】	第1学年 理学療法学科 65名 作業療法学科 25名			
【時間数】	30時間(2時間 15回)ほか期末試験 火曜日		【時間帯】	9:00～10:30			
授業内容・目標	病理学とは、「やまい(病)」の「ことわり(理)」を学ぶ学問である。種々の疾患によって、組織・細胞はさまざまな適応をとるが、「病理学」ではその意味と疾患のかかわりについて学修する。						
前提知識	「病理学」は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と密接に関係している。毎回の講義内容について、これまでに修得した基礎医学との関連を見いだすことが重要であり、そこから「心身機能の異常」について理解する必要がある。						
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	1.心身機能上の異常において、その原因と身体の組織学的変化について学び、説明できるようになる。2.人体の変化から疾病の原因を推定できるようになる。3.以上から、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100%				
	実施時期		当科目終了時				
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				
	思考・推論 実践・表現		○				

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
10月22日	1	病理学とは何か	これから病理学を学ぶにあたり、「病理学」について具体的な症例を提示しながら、医療におけるその意義について解説する。	笹野
10月15日	2	病気の発生要因(病因)	・病気の原因(病因)について(教科書第1章)	三木
10月29日	3	組織・細胞の適応-1	・細胞の基本構造とその増殖と死について(教科書第2章)	三木
11月5日	4	組織・細胞の適応-2	・再生と化生について(教科書第2章) ・萎縮の原因と分類について(教科書第2章)	三木
11月12日	5	組織・細胞の適応-3	・肥大・過形成、創傷治癒について(教科書第3章) ・進行性/退行性病変のまとめ(教科書第2、3章)	三木
11月19日	6	生体防御反応としての炎症-1	・急性炎症について(教科書第5章)	三木
11月26日	7	生体防御反応としての炎症-2	・慢性炎症について(教科書第5章)	三木
12月3日	8	免疫:基礎	・感染症について(免疫学の導入として)(教科書第6章) ・免疫の基礎について(教科書第7章)	伊藤
12月10日	9	免疫:疾患との関わり	・免疫と疾患について(アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全)(教科書第7章)	伊藤
12月17日	10	腫瘍とは、腫瘍の発生	・良性腫瘍と悪性腫瘍の鑑別について(教科書第9章) ・腫瘍の発生要因について(教科書第9章)	伊藤
12月24日	11	腫瘍のひろがり	・悪性腫瘍の転移について(教科書第9章)	伊藤
1月14日	12	循環障害:局所	・充血、うっ血、虚血について(教科書第4章) ・血栓形成、梗塞について(教科書第4章)	三木
1月21日	13	循環障害:全身	・心不全について(教科書第4章) ・DIC、側副循環路について(教科書第4章)	三木
1月28日	14	遺伝と疾患	・遺伝の基礎について(教科書第8章) ・遺伝病について(教科書第8章)	伊藤
2月4日	15	病理学とはなにか(再考)	日本人の主な死因の年次推移のグラフから、これまでに学んだ病理学を再考する(資料を配布)。	三木
教科書 参考書	シンプル病理学改訂第8版 南江堂			
授業に必要な物	PCとプロジェクターを準備する。 教科書とノートを用意する(教科書に線を引いたり、スライドの内容を筆記したりするのでその対応)。			
備考	適宜、補足のプリントを配布する。			

【科目名】	臨床心理学	専門基礎分野(2単位)	【講師名】	長谷川 涼子			
【講義期間】	1年次後期 令和6年10月18日～		【対象学生 第 1学年	理学療法学科 72名 作業療法学科 27名			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)ほか期末試験 金曜日		【時間帯】	9 : 00 ~ 10 : 30			
授業内容・目標	臨床心理学は人生の発達過程である誕生から死に至る様々なライフイベントを理解し、躰が生じた場合のアセスメントと心理援助を探求する学問である。全人的な視点に立ち現場で行われるチーム医療に役立つと考えられる。自己体験に置き換えお互いに意見交換する。						
前提知識	教科書を手に取り一読しておく。						
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習(○)				
到達目標	講義、映像、グループディスカッションを含め「生・老・病・死」について体験的に身近な問題として学習する						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	80			10	
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲						
	知識・理解						
	思考・推論						
実践・表現							

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
10月18日	1	オリエンテーション ①	医療現場での公認心理師の仕事	長谷川
10月25日	2	オリエンテーション ②	医療現場での公認心理師の仕事	長谷川
11月1日	3	「ストレスの不思議」	ストレスを学ぶ映像	長谷川
11月8日	4	心理療法①	カウンセリングの実際の映像	長谷川
11月15日	5	心理療法②	カウンセリング以外の心理療法	長谷川
11月22日	6	テーマ「出生前診断」ディスカッション	自己体験として考える	長谷川
11月29日	7	「赤ちゃんの不思議」	赤ちゃんの誕生と発達の映像	長谷川
12月6日	8	「ママたち非常事態」	子育ての現実と生理学の映像	長谷川
12月13日	9	成人期の発達	成人期の発達課題	長谷川
12月20日	10	「病の起源 うつ」	鬱の起源についての映像	長谷川
12月27日	11	テーマ「事故で脊椎損傷」ディスカッション	自己体験として考える	長谷川
1月17日	12	テーマ「がん告知」ディスカッション	自己体験として考える	長谷川
1月24日	13	テーマ「あなたは83歳の独居老人」ディスカッション	自己体験として考える	長谷川
1月31日	14	ユマニチュード	映像と解説	長谷川
2月7日	15	振り返り	授業の振り返り	長谷川
教科書 参考書	面白いほどよくわかる 臨床心理学 下山晴彦 西東社			
授業に必要な物	教科書を持参			
備考				

【科目名】	リハビリテーション医学	専門基礎分野(1単位)	【講師名】	水尻 強志			
【講義期間】	1年次後期 令和6年10月21日～		【対象学生 第1学年	理学療法学科 65名 作業療法学科 25名			
【時間数】	15時間 (2時間 7.5回)ほか期末試験 月曜日		【時間帯】	13:00～14:30 14:40～16:10			
授業内容・目標	リハビリテーション医学の基本的な考え方を理解する。						
前提知識	これまでに学んだ解剖学、生理学の基礎知識。						
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	障害構造を理解し、問題点リストを作成できるようになる。リハビリテーション医学の基本的アプローチ(廃用症候群の予防、治療的学習、環境調整、チーム医療)を理解する。脳血管障害など重要な対象疾患における機能障害の評価法を理解する。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100%				
	実施時期		当科目終了後				
	補足		選択式テスト				
	関心・意欲						
	知識・理解		○				
	思考・推論		○				
実践・表現							

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
10月21日	1	リハビリテーション医学総論(1) 高齢社会と高齢者医療	高齢化、高齢者向け住まい、死因と生活機能低下の違い、医療機関の機能分化と連携、地域包括ケアシステム	水尻
10月21日	2	リハビリテーション医学総論(2) リハビリテーションの定義と歴史、生活機能と障害	Physical Medicine、Rehabilitation、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、自立生活、介護保険、障害者総合支援法 ICIDH、ICF、ADL、IADL、Barthel Index、FIM	水尻
10月28日	3	リハビリテーション医学総論(3) 廃用症候群と運動学習	廃用症候群、生活不活発病、フレイル、介護予防 活動-機能-構造連関、治療的学習、環境調整、チーム医療	水尻
10月28日	4	リハビリテーション医学各論(1) 中枢神経障害の評価	脳の解剖と生理、脳血管障害の分類と診断、機能障害の評価:麻痺、感覚障害	水尻
11月11日	5	リハビリテーション医学各論(2) 中枢神経障害の評価(続き)、嚥下障害	機能障害の評価:意識障害、高次脳機能障害(失語、無視症候群、失行) 摂食・嚥下障害:メカニズム、評価(嚥下造影、嚥下内視鏡)、リハビリテーション	水尻
11月11日	6	リハビリテーション医学各論(3) 超高齢社会における医療倫理の諸課題	医療倫理の原則、終末期医療と診療の差し控え、人工栄養導入の可否、転倒予防と身体拘束	水尻
11月18日	7	リハビリテーション医学各論(4) 神経筋疾患、末梢神経障害	各種神経筋疾患:病態、症状、治療 末梢神経障害:外傷性損傷、絞扼性神経障害、多発神経障害	水尻
11月18日	8	リハビリテーション医学各論(5) 小児疾患、内部障害	脳性麻痺:原因、分類、評価、治療 心機能障害、呼吸機能障害、糖尿病:評価、治療	水尻
	9	期末試験		内部教員
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書 参考書	リハビリテーション医学テキスト改訂第5版 南江堂			
授業に必要な物	PC、プロジェクターを準備する。配布資料あり。			
備考	わからないことがあった場合、積極的に質問をすること。			

【科目名】	公衆衛生学	専門基礎分野(1単位)	【講師名】	吉田 真紀子			
【講義期間】	1年次後期 令和6年12月5日～		【対象学生 第1学年	理学療法学科 65名 作業療法学科 25名			
【時間数】	15時間(2時間 7.5回)ほか期末試験 木曜日		【時間帯】	9:00～10:30 10:40～12:10 13:00～14:30 14:40～16:10			
授業内容・目標	公衆衛生の成り立ちと基本を学ぶ。						
前提知識							
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	公衆衛生の基本を理解し、自身の職業との関連を知る						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100%				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲						
	知識・理解						
	思考・推論 実践・表現						

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
12/5(木) 9:00～	1	総論	公衆衛生の概要、健康、世界保健機関について学ぶ	吉田
12/5(木) 10:40～	2	公衆衛生の歴史 1	公衆衛生の成り立ち、感染症、パンデミックについて学ぶ	吉田
12/12(木) 9:00～	3	公衆衛生の歴史 2	公衆衛生の成り立ち、感染症、パンデミックについて学ぶ	吉田
12/12(木) 10:40～	4	地域における公衆衛生	地域保健行政の概要を学ぶ	吉田
12/19(木) 9:00～	5	母子保健、学校保健	母子、子どもにおける保健行政を学ぶ	吉田
12/19(木) 10:40～	6	老人・成人保健	高齢者、成人における保健行政を学ぶ	吉田
12/19(木) 13:00～	7	疫学の基本	公衆衛生の基礎となる疫学を学ぶ	吉田
	8	期末試験		内部教員
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書 参考書	なし			
授業に必要な物				
備考				

【科目名】	地域リハビリテーション	専門基礎分野(2単位)	【講師名】	阿部旭先生(理学療法士):医療機関にて14年実務経験				
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科				
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	月曜 13:00~14:30 14:40~16:10				
授業内容・目標	地域リハビリテーションとは何かを理解できる 社会福祉や介護保険に関する法律や制度を理解できる 予防・災害・産業理学療法についての理解を深めることができ、幅広い理学療法の職域を理解できる 見学実習(通所リハ・訪問リハ)にむけて地域リハビリテーションの概要を理解できる							
前提知識	理学療法士を目指す学生としての意欲を持っていること							
【実施形態】	講義(○)		演習()		実習()			
到達目標	地域の中での理学療法の基本を理解する 様々な在宅支援サービスとそその中の理学療法士の役割を理解する							
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)	
	配分(%)	10	90					
	実施時期		15回					
	補足	授業態度						
	関心・意欲	○						
	知識・理解		○					
	思考・推論		○					
	実践・表現							

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月12日	1	地域リハビリテーションの概要	グループワーク(テーマ:現時点で想像する地域リハビリテーションとは?) グループワークの手法 地域リハビリテーションの定義	阿部旭
	2	地域リハビリテーションの概要	プライマリヘルスケア、CBR、一次圏域、二次圏域、三次圏域	阿部旭
4月19日	3	社会福祉や介護保険の制度	障害者自立支援法、介護保険法 特定疾患、介護保険の利用方法、ケアプラン	阿部旭
	4	介護保険サービスの種類	通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーション、介護老人保健施設 短期入所、医療保険との違い、多職種協働	阿部旭
5月10日	5	通所リハビリテーションにおけるPTの役割	リハビリテーションの目的、通所リハビリテーションの業務内容(1日のタイムスケジュール、サービス担当者会議、実態調査、評価、介入等)、「活動」と「参加」に向けた取り組み、多職種連携	阿部旭
	6	訪問リハビリテーションにおけるPTの役割	リハビリテーションの目的、訪問リハビリテーションの業務内容(1日のタイムスケジュール、リハビリテーション会議、評価、介入等)、「活動」と「参加」に向けた取り組み、多職種連携	阿部旭
5月17日	7	老人保健施設におけるPTの役割	リハビリテーションの目的、業務内容(1日のタイムスケジュール、介助指導、ポジショニング、集団体操など)、多職種連携	阿部旭
	8	地域におけるPTの役割	地域支援事業、地域ケア会議、地域包括支援センター、地域・多職種連携、地域包括ケアシステム、地域ケア会議、自助・互助・共助・公助	阿部旭
5月24日	9	予防理学療法の概要	介護予防の定義と取り組み、一次予防、二次予防、三次予防、フレイル、サルコペニア、基本チェックリスト	阿部旭
	10	産業・災害理学療法の概要	労働衛生管理、労働安全衛生法 災害フェーズ、JRAT、災害時の支援活動時の状況と求められるスキル	阿部旭
5月31日	11	復習	定義、法律や制度、サービスの種類とPTの役割、職域の再確認	阿部旭
	12	復習	グループワーク テーマ:地域リハビリテーションとは? 私たちに求められるスキルは?	阿部旭
6月7日	13	見学実習に向けて(通所リハビリテーション)	挨拶、見学時の態度、患者様宅訪問時の注意点など社会人としてのマナー	阿部旭
	14	見学実習に向けて(訪問リハビリテーション)	当院での見学実習マニュアルを基に、実習の流れを説明	阿部旭
6月14日	15	介護予防・日常生活支援総合事業	介護予防・日常生活支援総合事業の概要と実際の様子	阿部旭
6月21日		まとめと評価		阿部旭
教科書 参考書	指定なし			
授業に必要な物	座学ではPC、プロジェクターを準備する。			
備考	グループワークでは積極的に発言することを心掛けること。			

【科目名】	理学療法概論	専門分野(1単位)	【講師名】	金子 亮太郎(理学療法士):医療機関にて18年実務経験 渡辺 似望(理学療法士):医療機関にて15年実務経験			
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	(他時間割参照)			
授業内容・目標	リハビリテーションの思想を学び、リハビリテーション医療に携わる様々な医療専門職の役割を理解する。患者・障害者・高齢者と、その家族らの身体・心理・社会面に関わる専門職としての理念・役割について考える。医療従事者としてあるべき姿勢・考え方と、対象となる患者・障害者像を捉える基盤を形成する。						
前提知識	医療・福祉領域の専門職の名称と業務内容(入学前教育) 専門職として相応しい言葉遣いができること						
【実施形態】	講義()	演習(O)	実習()				
到達目標	理学療法士が働く領域について理解できる 患者・障害者の捉え方を理解する リハビリテーションの流れや関連する他の職種について理解する						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10%	50%		40%		
	実施時期				前半・後半		
	補足						
	関心・意欲	○			○		
	知識・理解		○		○		
	思考・推論		○		○		
実践・表現	○			○			

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月9日	1	理学療法士の仕事を理解する①	理学療法士に必要なこと	渡辺
4月11日	2	リハビリテーションとは①	リハビリテーションの歴史	金子
4月16日	3	理学療法士の仕事を理解する②	理学療法士の働く場を調べてみよう(病院・介護老人保健施設)	渡辺
4月18日	4	リハビリテーションとは②	急性期～回復期～維持期	金子
4月23日	5	海洋リハビリテーション研修	海洋リハビリテーション研修(沖縄)	渡辺
4月24日	6		海洋リハビリテーション研修(沖縄)	渡辺
4月25日	7		海洋リハビリテーション研修(沖縄)	渡辺
5月2日	8	リハビリテーションとは	急性期～回復期～維持期	金子
5月9日	9		関連職種について	金子
5月16日	10		各種法律	金子
5月23日	補		まとめと確認(金子先生分)	内部教員
7月4日	11	障害や生活機能を理解する	障害とは	渡辺
7月11日	12		ICIDH / ICD10 / ICF	渡辺
7月18日	13		ICFとは	渡辺
8月6日	14	特別講義	動物介在療法を学ぶ①	川嶋
8月6日	15		動物介在療法を学ぶ②	川嶋
8月26日			まとめと確認	渡辺
教科書 参考書	なし			
授業に必要な物				
備考				

【科目名】	運動療法総論Ⅰ	専門分野 1単位	【講師名】	瀬戸 厚史(理学療法士):医療機関等にて7年実務経験 東海林智也(理学療法士):医療機関等にて18年実務経験			
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第 1学年 理学療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	10:40~12:10 (他時間割参照)			
授業内容・目標	理学療法に関する概念、運動療法の学問的基礎及び対象となる障害について学び、今後の学習への準備をする。日常生活で用いられる基本動作の誘導・介助法を学び、その中から医療専門職としての倫理観や理学療法士としての専門意識を育成する。一般的に用いられているストレッチングや筋力強化トレーニングなど自動的運動療法を学問的・理論的に捉え、自ら体験しながら学習し理解する。						
前提知識	入学時からの解剖学・生理学の知識。 人の身体機能への興味。						
【実施形態】	講義() 演習(○) 実習()						
到達目標	健康人に対する基礎的な運動療法を理解出来る。 関節の構造や、人の様々な動きについて観察することが出来る。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	0	100				
	実施時期	平時	当科目終了時				
	補足	質疑応答					
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○				
	思考・推論						
実践・表現	○						

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
5月21日	1	運動療法とは何か	運動療法の概要、運動療法の目的	瀬戸
5月23日	2	運動における関節可動性①	関節の構造と分類、関節の遊び	瀬戸
5月28日	3	運動における関節可動性②	関節の構造と分類、関節の遊び	瀬戸
5月30日	4	運動における関節可動性③	関節可動域運動方法、関節運動学を用いた関節可動域運動	瀬戸
6月6日	5	運動における関節可動性④	実際のROM運動	瀬戸
6月13日	6	運動における関節可動性⑤	ストレッチングの目的、効果、ストレッチングの種類	瀬戸
6月18日	7	運動における関節可動性⑥	ストレッチングの実際	瀬戸
6月20日	8	運動における筋の機能①	筋の収縮様式、姿勢・動作における筋の役割	瀬戸
6月25日	9	運動における筋の機能②	筋の収縮様式、姿勢・動作における筋の役割	瀬戸
6月27日	10	運動における筋の機能③	筋力増強の理論、筋力、筋持久力の評価	瀬戸
7月4日	11	運動における関節可動性と筋の機能	中間のまとめ	瀬戸
7月9日	12	バランス機能と加齢による運動機能変化と運動療法	加齢に伴う運動機能変化、バランス機能	瀬戸
7月11日	13	歩行補助具について①	歩行補助具の名称、使用方法、合わせ方、介助方法	瀬戸
7月18日	14	歩行補助具について②	歩行補助具の名称、使用方法、合わせ方、介助方法	瀬戸
7月25日	15	まとめ	最終のまとめ	瀬戸
8月6日		まとめと確認	確認テスト	瀬戸
教科書 参考書	Cross Link 理学療法学テキスト 運動療法学 編集 対馬栄輝 メジカルビュー社			
授業に必要な物	指示があった場合は動きやすい服装、PC、プロジェクター等の準備、授業内容をメモできる物			
備考				

【科目名】	運動療法総論Ⅱ	専門分野 1単位	【講師名】 東海林 智也(理学療法士):介護・教育機関等にて17年勤務
【講義期間】	1 年次後期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 10:40~12:10 (他時間割参照)
授業内容・目標	理学療法に関する概念、運動療法の学問的基礎及び対象となる障害について学び、今後の学習への準備をする。日常生活で用いられる基本動作の誘導・介助法を学び、その中から医療専門職としての倫理観や理学療法士としての専門意識を育成する。一般的に用いられているストレッチングや筋力強化トレーニングなど自動的運動療法を学問的・理論的に捉え、自ら体験しながら学習し理解する。		
前提知識	入学時からの解剖学・生理学の知識。 人の身体機能への興味。		
【実施形態】	講義() 演習(○) 実習()		
到達目標	健全人に対しての基礎的な運動療法を理解出来る。 関節の構造や、人の様々な動きについて観察することが出来る。		

成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		当科目終了時				
	補足						
	関心・意欲		○				
	知識・理解		○				
	思考・推論 実践・表現						

授業計画

日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	バランスの獲得・改善	姿勢保持について	東海林
	2	バランスの獲得・改善	運動出力系について (もしバランスが崩れそうになったらどうする)	東海林
	3	姿勢の改善	良い姿勢とは?	東海林
	4	姿勢の改善	ポジショニングと安楽性	東海林
	5	協調性の改善	姿勢定位とは?	東海林
	6	リスク管理について	リスク管理とは?	東海林
	7	基本動作の獲得・改善	基本動作とは?(寝返り、起き上がり、立ち上がりについて)	東海林
	8	歩行の獲得・改善	歩行についての基礎知識	東海林
	9	歩行の獲得・改善	歩行についての基礎知識	東海林
	10	歩行の獲得・改善	歩行についての基礎知識	東海林
	11	運動学習について	運動学習の基礎	東海林
	12	運動学習について	運動療法における運動学習の活用方法	東海林
	13	介助法について	ベッド上介助について	東海林
	14	介助法について	移乗移動について	東海林
	15	介助法について	移動介助について	東海林
		まとめと確認		東海林

教科書等	Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学
授業に必要な物	動きやすい格好
備考	

【科目名】	運動療法各論(演習)	専門分野 2単位	【講師名】	東海林 智也(理学療法士):介護・教育機関にて17年勤務 熊谷 拓未(理学療法士):医療機関にて8年実務経験			
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】	第1学年 理学療法学科			
【時間数】	45時間 (2時間 23回)		【時間帯】	13:00~14:30 14:40~16:10 (他時間割参照)			
授業内容・目標	運動療法の基礎知識及び技術について理解し、実践出来るようにする。学んだ知識・技術を活用し、各症状・障害に対して適切な運動療法を選択できるようになる。また各症状・障害についてのグループワークやプレゼンテーションを通して文献の使用法、発表の仕方、資料の作成方法を学習し協力して課題を達成する力を養う。						
前提知識	解剖学・生理学の知識。 実技における注意・配慮する点の知識と技術。						
【実施形態】	講義(○) 演習(○) 実習()						
到達目標	健康人に対する基礎的な運動療法を理解・実践出来る。 問題点に対し、実践するための思考が出来る。 関節の構造や、人の様々な動きについて観察・対応することが出来る。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表 ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	50		10	30	
	実施時期	平時	当科目終了時		随時	随時	
	補足	質疑応答・出席など					
	関心・意欲	○	○		○	○	
	知識・理解		○		○		
	思考・推論		○			○	
実践・表現	○	○		○	○		

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	オリエンテーション	授業の進め方、グループワーク・発表について	東海林
	2	各テーマについてポイント	バランス・協調性・中枢神経	東海林
	3	各テーマについてポイント	末梢神経・加齢	東海林
	4	グループワーク①	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	東海林
	5	グループワーク②	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	東海林
	6	グループワーク③	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	東海林
	7	グループワーク④	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	東海林
	8	グループワーク⑤	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	東海林
	9	グループ発表	グループ発表(障害、メカニズム、評価方法、運動療法、リスクなど)	東海林
	10	グループ発表	グループ発表(障害、メカニズム、評価方法、運動療法、リスクなど)	東海林
	11	前半まとめ	グループ発表(障害、メカニズム、評価方法、運動療法、リスクなど)	東海林
	12	オリエンテーション	授業の進め方、グループワーク・発表について	熊谷
	13	各テーマについてポイント	筋力低下・筋萎縮・ROM制限・疼痛の概要	熊谷
	14	各テーマについてポイント	持久力低下(心肺機能)・浮腫の概要	熊谷
	15	グループワーク①	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	熊谷
	16	グループワーク②	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	熊谷
	17	グループワーク③	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	熊谷
	18	グループワーク④	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	熊谷
	19	グループワーク⑤	各グループで教科書や各種文献を用いて調べ学習・資料作成	熊谷
	20	グループ発表	グループ発表(障害、メカニズム、評価方法、運動療法、リスクなど)	熊谷
	21	グループ発表	グループ発表(障害、メカニズム、評価方法、運動療法、リスクなど)	熊谷
	22	グループ発表	グループ発表(障害、メカニズム、評価方法、運動療法、リスクなど)	熊谷
	23	後半まとめ	グループ発表(障害、メカニズム、評価方法、運動療法、リスクなど)	熊谷
	補	グループ発表	グループ発表(障害の定義、メカニズム、評価方法、運動療法、リスクなど)	熊谷
		まとめと評価		熊谷・東海林
教科書 参考書	Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学			
授業に必要な物	指示があった場合は動きやすい服装、PC、プロジェクター等の準備			
備考	練習時間は限られていますので、時間外での積極的な練習等を行うことが望ましい。			

【科目名】	理学療法基本技術論	専門分野 1単位	【講師名】	小畑 陽平(理学療法士):医療機関等にて18年実務経験			
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】	第 1学年 理学療法学科			
【時間数】	30時間(2時間 15回)		【時間帯】	13:00~14:30 (他時間割参照)			
授業内容・目標	理学療法士が実践する基本的な手技療法について学び、興味を持ち、体験することを目標とする。						
前提知識	理学療法士(職種)の理解と理学療法士の興味、解剖学等						
【実施形態】	講義()	演習(○)	実習()				
到達目標	理学療法士に対するモチベーションをさらに高める。 理学療法士が実践する治療法を体験する。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表	レポート
	配分(%)	60					40
	実施時期	平時					講義最終
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解						
	思考・推論						
実践・表現	○						
授業計画							
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード				講師
4月15日	1	障がい者について	障害者について学ぶ				小畑
5月13日	2	障がい者について①	体験授業				小畑
5月20日	3	障がい者について②	体験授業				小畑
5月27日	4	徒手療法と筋ダイレクトストレッチ法	体幹部～頭部				小畑
6月3日	5	関節モビライゼーション法	下肢のモビライゼーション				小畑
6月10日	6	関節モビライゼーション法	上肢のモビライゼーション				小畑
6月17日	7	障がい者体験	PNFとは				小畑
6月24日	8	PNF法	上肢に対するPNF				小畑
7月1日	9	PNF法	下肢に対するPNF				小畑
7月8日	10	テーピング法	テーピングの基礎とテーピング体験				小畑
7月22日	11	包帯法	下肢に対しての包帯法について				特別講師 (予定)
7月29日	12	医療者としてのコミュニケーション術	コミュニケーションテクニックを学ぶ				小畑
8月5日	13	医療者としてのコミュニケーション術	コミュニケーションテクニックを学ぶ				小畑
9月2日	14	医療者としてのコミュニケーション術	コミュニケーションテクニックを学ぶ				小畑
9月9日	15	医療者としてのコミュニケーション術	コミュニケーションテクニックを学ぶ				小畑
9月30日		まとめと評価	まとめと評価				小畑
教科書等	特になし						
授業に必要な物	ハーフパンツ、半そで						
備考							

【科目名】	理学療法評価法Ⅰ	専門分野(2単位)	【講師名】 高村 真司(理学療法士):医療機関にて16年実務経験 瀬戸 厚史(理学療法士):医療機関にて7年実務経験 下平 茂晴(理学療法士):医療機関にて10年勤務 渡辺 似望(理学療法士):医療機関にて15年勤務				
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】第1学年 理学療法学科				
【時間数】	60時間 (2時間 30回)		【時間帯】 9:00～10:30、10:40～12:10 (他時間割参照)				
授業内容・目標	理学療法における評価の意義・目的を理解し、検査・測定から治療までの一連の流れについて学習する。 それぞれの基本的な検査・測定について原則的な方法で安全・正確に実施する技術を身につける。 測定実施の際には、対象者への配慮を第一に、分かりやすい言葉で対象者に測定の説明と同意が行えるように心掛ける。						
前提知識	骨・関節の名称及び動きに関する知識 対象者への配慮する意識						
【実施形態】	講義()	演習(○)	実習()				
到達目標	理学療法の一連の流れを把握し、評価における意義と目的を理解する。 情報収集による医療面談時の話し方、立振る舞いなどを理解する。 バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定の実技を健常者にて測定出来るようになる。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		30%	70%			
	実施時期		当科目終了時	当科目終了時			
	補足						
	関心・意欲			○			
	知識・理解		○	○			
思考・推論		○					
実践・表現				○			

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月11日	1	理学療法評価Ⅰ～Ⅳおよび評価実習までの概要説明 教科書確認(目次・各論・インデックス)	評価(情報収集→整理→解釈→問題点の抽出→目標の設定)	渡辺
4月18日	2	医療面接	医療面接の目的、方法、実践	渡辺
5月2日	3	バイタルサイン・測定	バイタルサインを測定する目的、測定値の解釈について、呼吸数、脈拍測定、血圧測定の正常値および検査方法	渡辺
5月9日	4	バイタルサイン・測定	バイタルサインを測定する目的、測定値の解釈について、呼吸数、脈拍測定、血圧測定の正常値および検査方法	渡辺
5月16日	5	医療面接・バイタルサイン・測定 まとめ	呼吸数、脈拍測定、血圧測定の正常値および検査方法	渡辺
4月11日	6	姿勢と運動、体位、構え、運動方向、支持面と支持基底面 (医学用語を使用しての表現)(観察⇄記録)	姿勢の名称、支持面、支持基底面	瀬戸
4月18日	7	形態測定:四肢長、周径 ①	形態測定を実施する目的、測定値の解釈、臨床応用について	瀬戸
5月2日	8	形態測定:四肢長、周径 ②	上肢長、棘果長、転子果長、上腕周径、大腿周径など	瀬戸
5月9日	9	形態測定:四肢長、周径 ③	上肢長、棘果長、転子果長、上腕周径、大腿周径など	瀬戸
5月16日	10	形態測定:四肢長、周径 まとめ	上肢長、棘果長、転子果長、上腕周径、大腿周径の確認	瀬戸
5月21日	11	関節可動域測定:上肢 ①	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
5月28日	12	関節可動域測定:上肢 ②	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
6月4日	13	関節可動域測定:上肢 ③	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
6月11日	14	関節可動域測定:上肢 ④	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
6月18日	15	関節可動域測定:上肢 まとめ	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習の確認	下平
6月25日	16	関節可動域測定:手指・別法	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
7月2日	17	関節可動域測定:上肢の復習	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
7月9日	18	関節可動域測定:上肢の復習	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
7月16日	19	関節可動域測定 総復習	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
7月23日	20	関節可動域測定 総復習	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	下平
5月21日	21	関節可動域測定:下肢 ①	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	高村
5月28日	22	関節可動域測定:下肢 ②	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習	高村
6月4日	23	関節可動域測定:下肢 ③	参考可動域、基本軸、移動軸、実技練習の確認	高村
6月11日	24	関節可動域測定:下肢 ④	各評価の再確認	高村
6月18日	25	関節可動域測定:下肢 まとめ	各評価の再確認	高村
6月25日	26	関節可動域測定:頸部	各評価の再確認	高村
7月2日	27	関節可動域測定:体幹	各評価の再確認	高村
7月9日	28	関節可動域測定:下肢の復習	各評価の再確認	高村
7月16日	29	関節可動域測定:頸部・体幹の復習	各評価の再確認	高村
7月23日	30	関節可動域測定 総復習	各評価の再確認	高村
		まとめと確認(実技試験)		科目担当
教科書、参考書	理学療法評価学 改定第6版(金原出版)			
授業に必要な物	実技は動きやすい格好。指定があったときには、ケーシー(白衣)着用すること。			
備考	実技は授業以外でも積極的の復習・練習を行うことが望ましい。			

【科目名】	理学療法評価法Ⅱ	専門分野 (2単位)	【講師名】 渡辺 似望(理学療法士):医療機関にて15年実務経験 下平 茂晴(理学療法士):医療機関にて10年実務経験				
【講義期間】	1年次後期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科				
【時間数】	45時間 (2時間 23回)		【時間帯】 13:00~14:30 14:40~16:10(他時間割参照)				
授業内容・目標	運動の始まり(随意運動)の始まりから筋収縮(興奮収縮連関)までを学び、筋力の構成要素について理解する。理学療法評価の一つである徒手筋力検査の意義、原理を理解し、知識の構築を行っていく。また、実技を通じて、身体の運動を観察・感じながら、技術を習得を目指す。検査結果からADLでどのような影響が起こるかを分析・想定出来るようにする。						
前提知識	各解剖学(骨・筋)の基礎知識						
【実施形態】	講義(○)	演習(○)	実習()				
到達目標	徒手筋力測定法を正確に実施出来る技術の習得 実施する際の説明や配慮等のコミュニケーション能力の習得 実施する際のリスク管理能力の習得						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		30	70			
	実施時期		当科目終了時	当科目終了時			
	補足		基礎知識など	リスク管理など			
	関心・意欲		○	○			
	知識・理解		○	○			
	思考・推論		○	○			
実践・表現			○				

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	MMT(徒手筋力検査法)について①	意義、目的、判定基準、抑止テスト	下平
	2	MMT(徒手筋力検査法)について②	抵抗の掛け方、妥当性と信頼性、実施手順	下平
	3	上肢の筋力検査①	肩甲帯周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	下平
	4	上肢の筋力検査②	肩甲帯周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	下平
	5	上肢の筋力検査③	肩関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	下平
	6	上肢の筋力検査④	肩関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	下平
	7	上肢の筋力検査⑤	肘関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施	下平
	8	上肢の筋力検査 確認	手関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施	下平
	9	体幹・頭部の筋力検査①	体幹・頭部周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	下平
	10	体幹・頭部の筋力検査②	体幹・頭部周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	下平
	11	体幹・頭部の筋力検査 ③	体幹・頭部周囲筋への徒手筋力測定法の実施③	下平
	12	体幹・頭部の筋力検査の確認		下平
	13	下肢の筋力検査①	股関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	渡辺
	14	下肢の筋力検査②	股関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	渡辺
	15	下肢の筋力検査③	股関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施③	渡辺
	16	下肢の筋力検査④	膝関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	渡辺
	17	下肢の筋力検査⑤	膝関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	渡辺
	18	下肢の筋力検査⑥	足関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施①	渡辺
	19	下肢の筋力検査⑦	足関節周囲筋への徒手筋力測定法の実施②	渡辺
	20	下肢の筋力検査 確認		渡辺
	21	実技確認と復習①	下肢周囲筋の実施方法の再確認と注意点の復習	渡辺
	22	実技確認と復習②	上肢周囲筋の実施方法の再確認と注意点の復習	渡辺
	23	実技確認と復習③	体幹周囲筋の実施方法の再確認と注意点の復習	渡辺
		まとめと確認	実技試験	下平、渡辺
教科書 参考書	理学療法評価学 改訂第6版 著 松澤 正/江口 勝彦 金原出版株式会社 新・徒手筋力検査法 原著第10版 著 Helen J.Hislop 他 株式会社協同医書出版社			
授業に必要な物	実技・演習では動きやすい格好をしていくこと。指示があった際には、ケシー(白衣)を着用する事。			
備考	授業で学習した実技に関しては、授業以外でも積極的に復習・練習を行う事が望ましい。			

【科目名】	地域リハビリテーション実習	専門分野 (1単位)	【講師名】 下平 茂晴(理学療法士):医療機関にて10年実務経験 渡辺 似望(理学療法士):医療機関にて15年実務経験				
【講義期間】	1年次前期		【対象学生】 第1学年 理学療法学科				
【時間数】	45時間		【時間帯】 8:30～17:30 (他時間割参照)				
授業内容・目標	本実習は、臨床実習の枠組みの中で、地域理学療法の見学実習を行うものとする。地域理学療法に関わる理学療法士の役割を理解するとともに、自主性・積極性・社会性を養い、専門職としての相応しい態度を身に付ける。実際の臨床現場に触れることで、理学療法士への自覚を醸成させる。						
前提知識	医療人としての適切な身だしなみや態度・行動等、専門職学生として相応しい態度 臨床実習を通じて、自己の理学療法士としての自覚を高めるための意欲 等						
【実施形態】	講義()		演習()		実習(○)		
到達目標	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法の役割を理解する。 自主性・積極性・社会性を養い専門職としての相応しい態度を身に付ける。 関連職種との連携や協働を学ぶ。 理学療法士を目指す目的意識をより一層強固なものにする。						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	実習前・後評価、及び臨床実習における評価報告書 総評等に基づく。					
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
	思考・推論	○			○	○	
実践・表現	○			○	○		

授業計画			
回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
1	実習前評価		
2			
3	地域リハビリテーション実習		
4			
5			
6			
7			
8	実習後評価		
9			
教科書 参考書	1年次に使用する教科書・参考書類 その都度必要な文献・論文類		
授業に必要な物	ケースー、上靴、検査道具等含む、実習に必要な物及び実習施設にて要必要と指示があった物		
備考			